**訂正** 本誌20ページにおいて、ぱいぱー まっちハカセ「お祭りの週末」本文に間違った原稿が入っていました。
読者の皆様とまっちハカセには深くおわび申し上げます。

眼鏡 ⊕ 理系 ⊕ 白衣

# Chapter 2 いつもの日本の大会と比較してみた。

ぱいぱー まっち
## お祭りの週末

**●お祭りの週末(準備編)**

先週末は年に一回の夏祭り「日本SF大会」であった。年に一回開かれるのだが、このところ参加できずにいた。2年前に一日だけ参加したが、その前は十年以上さかのぼってしまう。そんなわけで久々に参加する大会、しかも今年は「ワールドコン(世界SF大会、でいいのかな?)」との併催。否が応にも盛り上がるというもの。一年以上前から色々とネタを出し、「カフェ・サイファイティーク」に参加してこの週末に向けて準備していた。

一番目玉になったのは、メイドロボの背中で回っていた「ぜんまい」。去年の11月に試作機を作って以来デザインや機能の改良をしていたが、1台作るのに結構手間がかかるのと自分の元気不足とで間に合いそうになくなり、事前から参加していたハカセや幹部の皆さんと集まって一緒に製作した。当日、元気なチビロボ達によって取っ手が2枚ほど破損したが、まあそれくらいは予想のうち。誰も怪我することなく、また機構部分には破損も故障もなく、期待したとおりの性能を発揮してくれた。

次は光るめがね。 眼鏡のフレーム部分に電源と白色LED、スイッチを仕込み、めがねの鼻の部分を押してめがねを上げるとLEDがキラッと光るというもの。各部に半田付けを施したがそれでも接触不良が起きやすく、色々と調整しながら使用した。
まだまだ改良が必要だ。

そして「カエルの目玉」。ダイエット食品としても知られているバジルシードなのだが、これをシャーレに入れると迫力満点。とっても気味の悪い食品となる。あ、味は無味無臭で、シロップをかけるとわりとまとも。

本当は他にも、光るイヤリングとか、維管束単位で色素を吸わせた切花など色々と試作したり考えたりしていたのだが、あとはエネルギー切れで当日披露するに至らなかった。まあ、半分くらい実行できたから、十分成功かな。次の機会までには色々と改良を進めておいて、今回見送りになったネタを実現したい。

**●お祭りの週末(当日編)**

さて、当日の朝山のような荷物と共に現場に到着してから、会場の設営。中々テーブルの配置が決まらず、てこずってしまった。その後は、とりあえず稼動できるぜんまいを2セットほど選び出して当店自慢のメイドロボにセット。その後残りの未完成部品の組立作業に入ったのだが、後から考えるとここにちょっと落とし穴があった。一所懸命組み立てていくのだが、その間意識は常にぜんまいの法だけに向かってしまう。自主企画の経験もありSF大会の流儀も知っているのに、カフェ全体には目が向かなかったのだ。ぜんまいはなんとか必要な数をそろえることが出来たので、こちらは担当をこなしたと思っているが、お店全体についてはもっと「こうしよう」というアイディアが後からわいてくる。設営の最初から積極的に意見を出せばよかった。

とはいってもお客さんもそこそこ入り、ハカセは常に大忙し。参加した日については、カフェはおおむね繁盛だった。魔土ハカセの作ったヨーグルトが宅急便で届いていたのだが行方不明となり2日目に僕が発見した。箱を開けてみると運搬の途中で中身が暴れてしまい、外にこぼれてはいなかったものの見た目は悲惨な状況になっていた。
「確か乳酸菌が増殖すると、他の菌は増殖しなかったはず」と思って自分で試食。(人体実験とも言う) 時間がたってもなんともなかったのでようやくOKを出すことが出来た。

カエルの卵は「気持ち悪い」と大きな反響があった。もっとも、女性のお客様にはバジルシードが何であるかはバレバレであった。

**●お祭りの週末(出し物編)**

2日目の夜は、SF作家倶楽部のパーティーで出し物。カフェ・サイファイティークのメイドロボ新作発表会で最新型が暴走、ハカセのとんちでコンフリクトさせて取り押さえるというもの。今回は音楽担当ということで、CDや道具を準備。一休さんの「ポク・ポク・ポク・チーン」を出すための道具(楽器?)に苦労した。木魚も鐘もないので、ポク・ポクには小型のバケツを使用、チーンの代わりに小型のボールでカーンと鳴らすことに。そしてBGMとして久々に尺八を出して演奏。きくまこさんのテルミンと合奏した。尺八はマイクがあまりよく拾ってくれず、パーティー会場が賑わしかったのもあってほとんど聞こえなかったみたい。ポク・ポクはわりと響いていたが、カーンもマイクで拾えなかった。締めに用意したハレ晴レユカイ(サイファイダンスバージョン)はCDが再生できず、会場の井出くんのPCで再生した模様。音響的には全然効果が上がらなかったが、出し物としては喜んでもらえたようで良かった。

こうしてまとめて書いてみると、やり直したいことばかりだな。

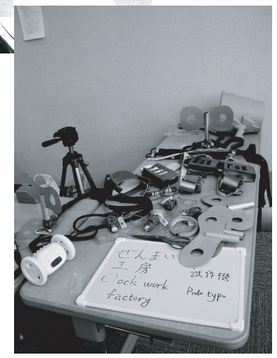
**●お祭りの週末(暗黒編)**

2日の日曜日は結婚式参加のため朝から六本木へ。式の途中で暗黒星雲賞の連絡が入る。企画終了間際に戻るのがやっとと考えていたので、いざとなったら若いハカセ2人に代理で壇上へ上がってもらうように手配した。式が終わると着替える間も惜しんで正装のまま横浜へ向かう。東急線の特急に乗れたこともあり、

第65回世界SF大会ワールドコンNippon 2007内　カフェ・サイファイティーク

カフェ・サイファイティーク ワールドコンNippon 2007店は2007年8月31日〜9月2日、
パシフィコ横浜 展示ホール施設2F ハーバーラウンジにて開催しました。
本誌はその怒濤の記録をまとめたモノです。

意外と早く横浜へ到着。何とか暗黒星雲賞の授賞式に間に合うことが出来た。到着してから衣装を調べたところ、白衣はちゃんと持っていたが光るメガネを忘れてしまっていた。幸い光るメガネに加工しようと思って用意していたメガネ(伊達)はあったので、これをかけて舞台に上がった。受賞したのはカフェ・サイファイティークが誇るチビロボたちなのだが、その開発者ということでちょっと説明。何だか開会式のときから通訳さんに対する配慮が全くないように見えたので、自分としては出来るだけ訳しやすいようにしたつもり。複雑な垂れ流しの構文を使わずに、一つの文を短くまとめて一文ごとに間を空け通訳しやすいように話した。実際には訳を待っている間に自分の頭の中の流れが途切れてしまい、意外と話し辛かった。果たして意味が通っていただろうか?とちょっと不安。

SF大会に始めて一般参加してから24年、以来何か自主企画や実行委員会に参加してきたが、賞を受け取ったのは初めて。

え?　受賞したのはチビロボ達だって?　はい、その通りです。(笑)